

認知症対応型共同生活介護施設 「グループホームもも鳥取」がオープンしました！

令和5年8月16日、ナーシングホームもも鳥取に、新しく、認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム定員9名)が開設いたしました。

特色1

要支援2～要介護5の認定を受け、認知症の診断を受けられている東員町在住の方にご利用いただけます。

特色2

定員9名で、全室個室です。
木のぬくもりのある、明るい居室をご用意いたしました。



特色3

共有スペースのフロアは日当たりがよく、明るく、また、窓は大きいので、外の景色を絵画のように綺麗に眺めていただけます。廊下は周遊できます。

特色4

多彩なレクリエーションをご用意しております。
料理、園芸など、様々なご趣味も生活に取り入れていきます。

特色5

体調がすぐれず、医療依存度が高くなった場合は、同敷地内の看護小規模多機能型居宅介護への紹介により、継続した入居が可能です。

施設の見学は随時受け付けております。介護相談にも応じます。ご関心をお持ちの方は、ぜひ見学にお越しください。お待ちしております！

【お問合せ先】
グループホームもも鳥取 刀根・須藤
TEL:0594-82-6021

文責: 青木

入居者 募集中

第19号 もも便り

ナーシングホームもも
令和5年10月発行



暑かった季節もやっと過ぎ去り、過ごしやすい秋の陽気になりました。
行楽地に出かけたり、美味しい物を食べたり、楽しい思い出が沢山できる季節でもあります。

そこで、今回のもも便りのテーマはズバリ！【思い出】です。



ナーシングホームももで関わる利用者様も、おひとりおひとり、
様々な、かけがえのない思い出をお持ちです。
人生の先輩である利用者様に色々な思い出話をうかがうと、
楽しかったことがあり、辛かったこともあり、けれどそれらを全部含めて、
人は「思い出」があるから生きているのだと感じます。
今回はそんな「思い出」に関する、あれこれを集めてみました。
秋の夜長に、ゆっくりと【もも便り】をお楽しみ下さい。

TOPIC

匂いと記憶と思い出ぼろぼろ

最近、健康のために飲み始めたリンゴ酢のすえた様な匂いを嗅いで、昔、長野の実家で、祖母が手作りしていたリンゴジュースの味と、作っている作業風景を思い出しました。
匂いをきっかけに思い出が蘇るのは、嗅覚と記憶に密接な関連があるためで、匂いは、記憶を司る海馬などがある大脳辺縁系にいち早く達するそうです。アルツハイマー型認知症では、この海馬が障害を受け、物忘れが頻繁に現れはじめますが、海馬の障害よりも前に嗅神経が障害を受けることが発見されました。そのため、近年では認知症の予防や初期症状の改善に、精油の香りを嗅ぐことで脳への刺激を促す芳香療法(アロマセラピー)の効果も期待されています。
日々の暮らしの中でも、料理をしながら食材の匂いを嗅いだり、花や草木の香りをかいだりすることも嗅覚のトレーニングになり、認知症予防になるようです。また、季節の草花の香りを意識しながら散歩することで、嗅覚の回復や低下を防ぐことにもなります。香りを意識して、思い出を沢山作っていきませんか。

TOPIC

神無月と神帰月

陰暦の10月は、日本各地の八百万の神々が出雲大社へおでかけになるため、神無月(かんなづき)と呼びます。島根県出雲地方では、全国から神様が集まってくることから、同じ月を神在月(かみありづき)と呼んでいます。この月、出雲大社では人が計り知ることのできない「神事」が神々により話し合われると言われています。そして、11月には、お出かけになっていた神々が、地元にお帰りにされるので、神来月、神帰(かみきづき)月と呼びます。少し早いですが、どうぞ来年も良い年でありますようお願いしています！

お知らせ

第13回 ナーシングホームもも 事業所発表会

例年開催しているナーシングホームももの事業所発表会を今年も開催いたします。今年は8月にオープンしたばかりの「グループホームもも鳥取」で開催します。どなたでも無料で参加いただけますので、お誘いあわせの上、是非お越しください。

【テーマ】 認知症と共に生きる
【開催日時】 令和5年11月26日(日) 9:30～12:00
【開催場所】 グループホームもも鳥取 2F会議室

【問合せ先】 0594-33-0302 担当: 筒井



★職員募集中★

私たちと一緒に働きませんか?
詳細はホームページを
ご覧ください



ナーシングホームもも

検索

<http://www.momo3.net>



【発行】 有限会社だいち
ナーシングホームもも
【編集】 もも便り発行委員会
【発行月】 2023年10月(年3回)

【東員】

〒511-0254 員弁郡
東員町中上790-1
TEL 0594-75-0302

【鳥取】

〒511-0241 員弁郡
東員町鳥取917-2
TEL 0594-86-1110
TEL 0594-86-1113

【いなべ】

〒511-0428 いなべ市
北勢町阿下喜3514
TEL 0594-72-3530

【四日市】

〒512-8054 四日市市
朝明町441-1
TEL 059-336-3330

【桑名】

〒511-0901 桑名市
筒尾1-13-1
TEL 0594-33-0302

いなべ

『思い出があるから今がある』

利用者Mさんは重症心身障害で、ももの訪問看護(主に訪問リハビリ)をご利用いただいています。今回は、Mさんのお母様から思い出話をお聞きすることになりました。「50年も生きると沢山あるわよ」と、Mさんもお母様もニコニコしながら、アルバムに収めきれないほど沢山の写真を見せて下さいました。

Mさんは、平日は地域の小学校に通って、土日は養護学校に通う子供時代でした。小学校は、プールやキャンプ、運動会の練習など盛り沢山でした。そして、その時代には珍しいインクルーシブ教育だったそうです。インクルーシブ教育とは、障害のある人となない人が、地域の学校で共に学ぶ仕組みのことです。

運動会にどうやったら参加できるか? 網の下をくぐるリレーはどうやって参加するのか? 周りの子等が「網を持ち上げたらいい!」等々、課題やアイデアを出し合って、参加してきたそうです。

話は変わりますが、その頃、車椅子仲間の親子8人で一泊の神戸や姫路で遊んだ思い出も蘇ります。Mさんの1番の目的は温泉だったそうで、毎年旅行に行っていて楽しんでいました。

また、1986年のプロ野球ドラフト会議で桑田投手を見て「今日からファンになる」と言うMさん。それまでプロ野球も甲子園も見たことがありませんでしたが、その日から野球に夢中の青春時代を過ごしました。

Mさんを介護しているご両親もだんだんと年を重ね、近年は体力的な不安も出てきたそうですが、「本人の幼少期に思う存分に旅行したり夢中になった思い出があるからこそ、これからの家族の生活は家族3人、自宅でゆっくり過ごすの」とポジティブに生きようとされる姿が印象的でした。

♡ 大阪万博の年に生まれたMさんへ♡ 2025年の大阪万博を目標に、これからもご自宅でゆっくり過ごせるように、もも職員にお手伝いをさせてください。素敵な思い出のお話をありがとうございました。

文責: 服部





昭和の思い出 ～ギャグ・ダジャレ～



もも鳥取ご利用中のKさん。病状はおもわしくありませんが、「笑って、人間らしく過ごしたい」と、車椅子での散歩中には、川のほとりで歌を歌ったり、通りすがりの方に手を振ったりして、人との触れ合いや自分らしさを大事にされています。“笑いたい”というKさんの「笑う」は、「今、生きている力」「魂の力」のように感じます。笑うことの力のすごさを、私たちはKさんを通して伝えてもらっています。

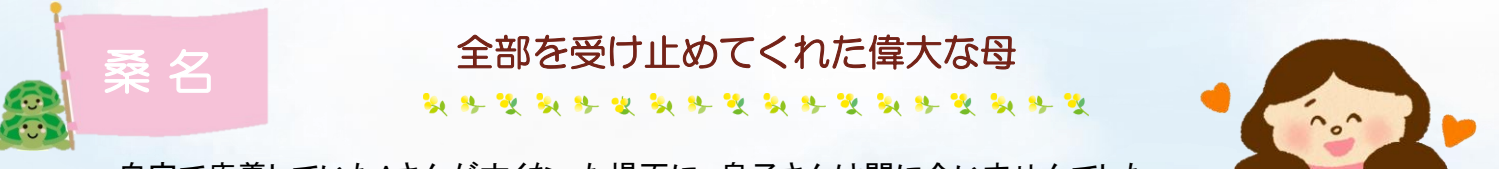
そういえば・・・時代は、令和となりましたが、つつい昭和生まれが口するようなギャグがありますよね。今日もそんな言葉で「クスッ」とほっこり笑顔で過ごしてみませんか。

昭和生まれの大好きなギャグ・ダジャレ集

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| • あたり前田のクラッカー！ | • よっこいしょういち | • 冗談はよしこさん |
| • しまった、しまった、島倉千代子 | • アイムソーリーヒゲソーリー | • ガチョーン |
| • レッツラゴー | • すみま千円二千円 | • およよ |
| • おどろ木ももの木さんしょの木 | • ざまあみそ漬け | • ばいちゃ |
| • あつと驚くタメ五郎 | • だっちゅうの | • なるへそ |
| • だいじょうV(ブイ) | • そんなバナナ | • めんご |
| • おこんばんは | • バタンキュー | • なんちゅうか本中華 |
| • バッチグー | • ゆるしてチョンマゲ | • お茶の子さいさい |
| • 余裕のよっちゃん | • わけわかめ | • とんでもハッピー |
| • アジャパー | • いただきマンモス | • そんなことは有馬温泉 |

だじゃれは、連想記憶を鍛えるトレーニングになるようで、「脳の活性化」についてその有効性が科学的に証明されているそうです。言葉一つで会話も楽しくなりますね。懐かしいギャグを使って、その場の雰囲気をもたせ、楽しんでみましょう。

文責：青木



全部を受け止めてくれた偉大な母



自宅で療養していたAさんが亡くなった場面に、息子さんは間に合いませんでした。亡くなる前日まではお母さんと家族とで過ごしていたのに、息子さんが遠方にある自宅に帰ってすぐのことでした。息子さんに訪問看護師が連絡を入れていましたが、連絡に気づかず、お母さんの元に戻ったのは、息を引き取ったあとでした。

息子さんは辛かったのか、ベッドサイドでお母さんの手を握りながら顔を伏せ、声を押し殺して泣いていました。その後、エンゼルケア(死後のケア)を希望され、お母さんが好きだった洋服を息子さんと娘さんに選んでいただきました。息子さんがお母さんの頭を洗い、体を拭かれましたが、そのあいだ、息子さんは「小さいときから母はなんでも自分の話を聞き入れてくれた。自分がめちゃくちゃなことを言っても、そうかそうかとうなずいてくれた。自分が少し反抗的な時期があり、家から出る事になった時も母は反対せず送り出してきて、色んなものを仕送りしてくれた。」と、たくさんの思い出をなぞるように話されました。

訪問当初、Aさんは体調も良く、色んなお話を聞かせていただいていたのですが、ベッドで過ごすことが多くなってからは会話は難しい状態でした。それでも亡くなる数日前に痛みを抱えながら、息子さんが遠方に行かれてとても心配だったこと、でもすごく良い方に出会い、人生を変えてもらったことなど、嬉しそうに話されていました。

Aさんは、そのお話の数日後に亡くなりましたが、エンゼルケアの最中、息子さんから同じ話が聞け、親子で同じ話をされるとは、強い思いが通った時間だったのだと感じました。

息子さんがAさんの最後に間に合わなかったのは、母として最後の姿を見せられなかったのではないでしょうかとお話すると、息子さんから、「そうかもしれない。」との言葉。人は最期の瞬間を自分で決められると言われていました。エンゼルケアが終わる頃には、息子さんは泣きながらも笑顔になりました。娘さんにお化粧をしていただき、元気だった頃の穏やかなお顔になられたAさんに、みんなも笑顔になりました。息子さんにとって、そしてご家族にとって、お母さんは最後まで「偉大なお母さん」だったのでしょうか。そして、この最期の場面も、息子さんにとって忘れられない思い出の一つになることでしょう。

文責：吉岡

彦ちゃんへの想い



ナーシングホームもも四日市の介護員の松本です。私は22歳でサーフィンを始め、多い時は週2回、二時間半以上かけて海に通っていました。サーフィン後に、地元の方と海の話をしたりするうちに仲良くなった海士(あま)のおじちゃんがいます。サーファーの間でも有名なおじちゃん、みんなに「彦ちゃん」と呼ばれていました。BBQや浜のイベントなどに誘ってくれたり、彦ちゃん家での宴会や仕入れ先のごはん屋さんに連れて行ってくれたり、一人で海に通う私をととても可愛がってくれました。

彦ちゃんが首を痛めて、四日市の医療センターに手術のために入院した時は、知り合いのいない遠くの病院で寂しい思いをしないよう、仕事前に毎日顔を見に行き、とても感謝されました。酒豪の彦ちゃんは体調を崩し、入退院を繰り返すようになりました。

ある日の海の帰り、彦ちゃんの奥さんから電話が入り「彦ちゃんね、肝臓がんでもう長くはないの」と聞いた時は涙が止まりませんでした。彦ちゃんが退院し自宅療養中と聞いたので、私はサーフィンの帰りに家に立ち寄り、玄関から「彦ちゃん！」と呼ぶと「おーここやー」とかすれた声が奥の部屋から聞こえてきました。弱り切ったか細い、いつもと違う彦ちゃんの声。本当にもう長くはないということを悟った私は急に会うのが怖くなり、そのまま帰って来てしまいました。

その後、彦ちゃんは再入院し、次に会うことができた時は意識のない状態で、もう二度と会話することはできませんでした。あの時、現実を受け止めることができず、逃げ出してしまったことが今でも悔やまれ、私の辛い思い出です。

今、介護のお仕事に就き約10か月。自身の親の介護も始まりました。老いることや死ということから逃げ出さず、可愛がってくれる利用者様とも正面から向き合うことが、彦ちゃんへの恩返しだと自分に言い聞かせています。



文責：松本

あなたの思い出はどんな味？



目で見たもの、耳で聞いたこと、五感で感じたことなどから、ふとその物に思いを寄せると、過去に体験した「思い出」がよみがえってきます。今回は私の「トマト」の思い出をお話させていただきます。

お盆に実家に帰省し、小学校からの友人と数年ぶりに会ってランチをした時、サラダを食べている私に友人が「あれ？トマト嫌いやったよね？食べられるようになったん？」と聞いてきました。よくぞ覚えていてくれました。そうです、私はトマトが嫌いだったのです。



思い起こせば、小学校3年生の時です。学校の給食にトマトが丸ごと1個ついたのです。その時の担任のS先生は厳しい先生で、「必ず残さずに食べなさい」と、完食したかどうか先生の所に持って行き、OKが出れば片付けて良いことになっていました。1口食べて見せに行き、「もっと食べなさい」。もう1口食べて持って行き「もっと」・・・もう1口・・・昼休みもずーっと座って泣きながら食べていたことは今でも忘れられません。

それから月日は流れ、今はもう成人しているわが子達が小学校の時のことです。学校にある農園でトマトを育てていました。ある日、帰宅した長女が「母ちゃん、母ちゃん、ちょっと来て」と手招きするので娘の近くに行くと、「はい♥」と大切に包んできた真っ赤なトマトを手のひらに載せて、「一番大きいのできたの。母ちゃんにあげるね」とプレゼントしてくれました。

先日は、利用者様のお宅に訪問した時に畑に植えてある野菜の話になり、「妻がいつも野菜を育てて料理を作ってくれている。幸せなことに何でも好きなんだ。僕の思い出の中には嫌いな食べ物はないよ」とのこと。「ようけ採れたんや。あんたトマト好きか？」と聞かれ「大好き」と答えたことは言うまでもありません。

同じ事柄でもまつわる思い出は人それぞれ違います。皆さんも脳を活性化させて、思い出に花を咲かせてみませんか？



文責：林